

ぜったいに強くなる

豊小・2 辻 大輝

ママがしごとをする時間は六時間。

パパはだいたい十二時間ぐらいはたらいっている。

ぼくはキックボクシングをしている。パパとママがはたらいで、お金をかせいで、ならいごとのお金を出してくれる。だから、ぼくは、ぜったい強くなりたい。

ぼくは強くなるために、毎日、れんしゅうしている。ぼくがキックボクシングをならいはじめてからの二年間、ずっと毎日れんしゅうをしている。キックとパンチとトレーニングをしている。トレーニングでは、ならいごとみんなとお兄ちゃんといつも同じコースを走っている。トレーニングで大へんなことは、毎日ふつきんを百回することだ。ぼくもふつきんがついてきたけど、お兄ちゃんの方がついている。ぼくは、もう強いけど、もっと、もっとれんしゅうをして、もっと、もっと強くなりたい。

こんどのしあいは十月二十四日にある。ぼくが出るのは、二十五キロトーナメントだ。それまでに、もっと強くなりたい。ママとパパがぼくのためにおうえんしてはたらいてくれているから、ぜったい चाहたい。でも、二十五キロトーナメントには三年生の強い子が一人出てくる。その強い子は、ベルトを四こもっている。ぼくもこのしあいにかてたらベルトを一つもらえる。ベルトはぼくがかよっているメーカーだから、ぜったいにほしい。ぼくをおうえんしてく

れる。パパとママのためにもベルトがほしい。だから、毎日れんしゅうして、ゆうしようしたい。

前のしあいは夏にとうきょうでやった。しあいのさいしよはよかったけど、二ラウンド目からだめになった。あい手が強くて、パンチやキックが出せなくなった。あい手はとうきょうの四年生で大きかった。二十四キロのワンマッチだった。ちよつとかてるかなと思つたけど、かてなかった。お兄ちゃんもしあいにまけたけど、いいしあいだった。パパとママは家でちゅうけいで見っていた。

「まけたけど、いいしあいだったよ。」

と帰ってきたぼくに、ママが言った。パパは

「がんばったね。」

と言ってくれた。ぼくは、しあいにまけてしまったけど、いいしあいだったとパパとママに言ってもらえてうれしかった。

しあいにまけてからもぼくは、いままでのれんしゅうをつづけている。毎日、同じメンバーとトレーニングをつづけている。まずは、いつものコースを走る。つぎに、お兄ちゃんとミットでキックのれんしゅうをする。さいごに、トレーニングのうで立てを五十回、ふつきんを百回。時間がある時は、ふつきんが二百回になる。ひぎが強くなるトレーニングもしている。もつともつとれんしゅうをして、強くなりたい。ぼくがかよっている場しよは、タイ人のコーチが二人いる。トレーニングがおわるとそのコーチに

「つぎは、なにをしますか。」

とぼくは聞く。教えてもらったことをいっしょうけんめいする。だから、ぼくはぜったい強くなる。